

新社会

つくば

発行：新社会つくば

TEL・FAX 029-857-1154

金子 かずお気付

kaneko@max.hi-ho.ne.jp

<http://kanekokazuo.hakurakuryo.org/>

2020年 6月23日 1172号



つくば市議会・常任委員会

つくば市議会の常任委員会は四委員会で構成され一日二委員会で10時から開催されてきていました。今回は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため午前10時開催と午後1時30分に分かれて開催されることになりました。開催予定は右記をご参照ください。



6月22日（月）午前10時
総務委員会

6月22日（月）午後1時30分
文教福祉委員会

6月23日（火）午前10時
市民経済委員会

6月23日（火）午後1時30分
都市建設委員会

「介護現場での集団

感染」との闘い

東海第二原発再稼働の是非・県民投票

東海第二原発の再稼働の是非を問う県民投票条例案の審議が県議会防災環境産業委員会で6月18日に審議され、東海第二原発の再稼働の是非を問う県民投票条例案を賛成少数で否決した。

条例案は、「いばらき原発県民投票の会」が5月25日、地方自治法で定める有権者の50分の1の約1・8倍の8万6703人を集め知事に直接請求していた。委員会の採決は委員長を除き9名で構成され反対7票、賛成2票で否決された。県議会最終日の23日には最大会派の「いばらき自民党」が条例案に反対することが表明されているので、条例案は廃案となる見通しである。

特養・北砂ホーム

共同通信が6月2日、「介護現場での集団感染」との闘いを報じている。その苦闘の報告は、大変参考になると考え、以下に転載します。

▽人手足りず緊迫の1カ月

新型コロナウイルスでクラスター（感染者集団）が発生した特別養護老人ホーム「北砂ホーム」（東京都江東区）の複数の関係者が2日までに共同通信の取材に応じた。感染

者は50人超、うち入所者5人が死亡。人手不足の中、何とか高齢者の命を守ろうと、防護服に身を包みながら介助した。関係者の証言を基に、緊迫の約1カ月を再現した。

▽ 特養ホームを病院に

異変が起きたのは4月中旬。入所者がわずか数日で次々と発熱、入院した。入所者の発熱はさほど珍しくないが、短期間に連続。感染の二文字がよぎった。同22日、PCR検査を実施。3日後、10人中9人が陽性と判定された。

ホームを運営する社会福祉法人あそか会の古城資久（こじょう・もとひさ）理事長は、入所者と職員ら約180人全員のPCR検査を指示。さらに26人が陽性となった。

直ちに施設内の「ゾーニング」を行い、感染者、非感染者を別フロアに。症状が出ている高齢者は既に系列病院に入院。無症状の人はほかの病院に移すことも検討したが、受け入れ先が決まらない恐れもある。

「ホームを疑似病院化する」（古城理事長）と決め、同じ法人の病院の医師が毎日朝晩、回診。病院の診療情報とホームの介護情報をオンラインでつなぎこまめにチェックするなど、容体管理を徹底した。

▽ 誹謗中傷も

一方、ホームの職員には緊張が走っていた。感染者が出た2、3階担当の職員約30人が全員自宅待機を命じられたためだ。残りの6人だけでは到底人手は足りない。系列の別施設などから職員十数人が応援に入った。

幸い病院から装備は入手できたが、防護服を着用しての介護は困難を極めた。トイレや食事の時以外は脱げず、医療用マスクは想像以上に暑く、苦しい。「装備をしていると水分を取れないのがつらかった」と箱崎恵美子課長。

応援は来たが、職員は夜勤明けでも夕方

まで働き続けた。和田敬子施設長は「応援職員や病院の支援態勢がなければ、おむつ交換もできず介護崩壊になっていた」と振り返る。ホームで感染者が出たことが報じられると、回線がふさがりほど誹謗中傷の電話が殺到。「精神的につらかった」。

介護では食事や排せつなど利用者、職員



の密着が不可避だ。認知症の人の場合はマスク着用が難しい。ホーム

では2月下旬から家族との面会を禁じるなど対策を重ねていた。和田施設長は「ノロウイルスが出たこともあり、例年以上に感染症対策に気を使っていた。入り口は分からなかった」と話す。

▽ 応援に涙

5月25日、屋上に出た職員が、近くの第六砂町小学校の窓に貼られたメッセージを見つけた。「がんばろう北砂ホーム 応援しています」。職員のほほに涙が流れた。最初の感染確認から1カ月。5人が亡くなった。

3度目のPCR検査で陽性は数人となり、現在、新たな感染者は出ていない。職員の自宅待機も解かれ、ホーム内を消毒し、6月から併設のデイサービスを再開した。

「すぐに全員のPCR検査を行い、施設をゾーニングし、職員はフル装備で対応した。5人亡くなられたが、何とか必要な対策は取れた」と古城理事長。「第2波、第3波に備え、対策の一助になれば」と話した。